
妖と陰陽師

瑠璃色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妖と陰陽師

【Zコード】

Z3966Z

【作者名】

瑠璃色

【あらすじ】

注意

これは作者の妄想から出来てますのでクオリティが低いです。

関東大妖怪任侠一家奴良組の三代目、ぬらりひょんの孫の奴良リクオが通う学校に転校生がやってきた。

「花開院 朝日です。よろしくお願ひします。」

花開院と名乗る彼女の正体とは?

京都編

再び京都にやってきた清十字怪奇探偵団。

清十字怪奇探偵団が京にはびこる悪を滅するーー?

設定

設定

花開院 朝日（けいかいん あさひ） 妖怪の時 茜色 朝日（あかねいろ あさひ） 13歳

妖怪と陰陽師の娘。

見た目 黒羽丸の人間で女バージョンのような感じ。和風美人だが夜になると瞳が紫色になる。妖怪の時と人間の時の外見がほぼ一緒。陰陽師として居る時は何処でも黒縁眼鏡にポニー テール。

性格 お姉さんぽい。少し抜けている所がある氷麗のサポート役。公私きちんと分けていて、公 真面目で努力家。完璧人間。私 秀元と悪のり、からかいをしている。お茶目。

力 齢六歳にして陰陽術をきわめた努力型の天才。休日は陰陽師として一人で仕事をこなしている。誰も知らなかつたが式神破軍を使える。ちなみに戸籍上では花開院 朝日となつていて真名を知っているのは奴良組、花開院のごく一部の人物のみ。

その他 奴良組には修行の合間や手が空いている時の長期休暇のとき遊びに来ていた。やることが無いので色々経験しようと世界をまわっていた。秀元と仲が良い。氷麗とも姉妹のように気が合う。奴良組の頼れる妹的存在。

付け足しがありましたら追加します。

設定（後書き）

付け足しました。

分からぬところがあつたらいつてください。

転校生（前書き）

本編です！
力ナ視点となっています。

転校生

浮世絵町。奴良リクオの通う学校。

「今日は転校生を紹介する」

ザワツ！クラスが急に騒がしくなる。男？女？どんな子？と話している。私はチラツとリクオ君を見る。リクオ君は特に興味がないようで班の男子の話に相槌をうつてくる。

「静かに！入れ」

先生は一喝した後転校生を呼ぶ。どんな子だろう？と顔、ドアを食い入るように見つめている。私もドアを見つめた。

ガララッ！入ってきたのは黒髪の和風美人な女子。

「花開院 朝日です。よろしくお願いします」

花開院？じゃあこの子も陰陽師なの？

この間家のことが一段落して戻ってきたゆらちゃんの方を見る。ゆらちゃんも困惑していた。たまたま一緒に名字なだけかも。私はそう結論付けて考えるのを止めた。

お皿。屋上。

私と巻さん、鳥居さん、島君、清継君はリクオ君、及川さん、ゆらちゃん、朝日さんを追っていた。なぜならお皿になると、四人で駆けつてしまつたからだ。

「どうぞ」とやへ朝日姉。うち、何も聞いてへんけど

ゆいりちゃんが朝日さんに詰め寄る。

朝日姉と呼んでいたから、やっぱり知り合いだつたみたい。でもなんでさつき困惑していたのかな?

「え、竜一から聞いてない?」

「聞いてへん……。」

ゆいりちゃんは一気にまくしたてたからかゼーハー言っている。

「朝日、久しふり」

リクオ君が笑う。及川さんも「コッ」と笑う。

「久しふり、氷麗、『総大将』！」

その言葉が意味する」と「気づくのは後一分後のこと。

転校生（後書き）

グダグダで申し訳ありません（ - ー - ; ）
誤字、脱字ありましたら指摘お願いします。^m(ーー)m^
感想も書いていただけると嬉しいです。

朝日の秘密（前書き）

今回も力ナちゃん視点です！

今回、試しに会話文と地の文を一行あけて書いてみました。
感想があつたら感想書いてくれると嬉しいです。

「じゃあ朝日も妖怪・・・なの？」

巻さんが信じられないという表情で尋ねる。私たちも妖怪についてはこの間、リクオ君と及川さんに聞いたばかりだからよく分からないけどリクオ君の事を『総大将』と呼ぶのは妖怪だけだということをぐらり分かる。

「うふ。そーよ」

深刻な表情で聞いたのに、朝日さんの返事は拍子抜けするぐらいいつぱり、すつきつしたものだった。リクオ君と及川さんとゆりちゃんが苦笑している。

「妖怪と陰陽師のハーフなの」

重大な秘密な筈のこともばらしている。皆睡然としているし、飄々とした富司さんのような格好をした人がやつてきた。確かゆりちゃんの式神の・・・。

「秀元、学校終わるまで待つてよー」

「えーかよつとぐらいいいやんかー。なあゆりちゃん」

秀元さんがゆりちゃんに尋ねるが、ゆりちゃんは固まっている。どうしたんだろう?そんな驚くことかな?ゆりちゃんの式神なんだからびっくりする」とないのに。

「うひ、破軍よんでないで

えつへ秀元さんはゆりひやんの式神じゃないの？それにゆりひやん
じやなかつたら誰が呼んだんだろ？・清継君たちも困惑してこる。

「私が呼んだの。秀元はやらだけの式神じゃないの」

『なるほどー』

皆の声が重なる。回じことを考えてたのかな？

「やうやう飯にしない？」

リクオ君の提案で「飯を食べる」とした。

そして成り行きで朝日さんも清十字怪奇探偵団に入る」となった。

放課後

「週末、京都に行こいつ。の間は妖怪に会えなかつたしねー。」

『えーーー。』

すいじく嫌な予感がする。あの時みたいにならなことこいけど。。。

朝日の秘密（後書き）

どうでしたか？

悪い点、その他感想ありましたら感想に書いてください！

京都へ（前書き）

今回は神視点です。

京都へ

奴良組の朝は遅い。なぜなら妖怪というのはだいたい夜行型だからだ。

そんな奴良組に日の昇つたばかりの時間に身だしなみを整えている者がいた。

花開院 朝日

花開院家の陰陽師にして、奴良組の妖怪。

珍しく朝日は和服を着ていた。白い着物に藍色の袴。そして黒縁眼鏡に、ポニーテール。

なぜこんな格好をしているのかといふと、朝日は陰陽師として居るときはいつもこの格好なのだ。

朝日曰く「形から入るタイプだから」らしい。

今日は京都に行く日。一人は寝れないほど心待ちに、一人は悪夢を見るほど来て欲しくなかつた日。

集合場所。

「遅いじゃないか！ん？朝日さん、それは陰陽師の服なのかい？」

清継が朝日の服がいつもと違うことに気がついたよつて朝日に尋ねる。

「違うよ。けどいつもこの格好だから。ほら、何事も見た目からつていうでしょ？」

清継と朝日はのんきに話していたが

「二人とも早くしないと出発しちゃうよー！」

リクオの声で一人も駅に入つていつた。

「この間は妖怪に会えなかつたけど今回こそは！」

清継はそんなことを言つてゐるが、カナや鳥居からしたらいい迷惑だ。

だが清継がそんなことに気がつくわけもなく、三者三様に京都へ思いを馳せていた・・・。

京都へ（後書き）

突然ですが朝日の妖怪の時の名前を変更させていただきます。
澪聖 茜から茜色 朝日（あかねいろ あさひ）になります。
理由は読み返していたら、名前が違うのはわかりずらいと思つたからです。

すみませんm（— —）m

後、設定も付け足したので見てみてください。

花開院家（前書き）

ゆうひやん視点です。
かなり工セ京都弁です・・。
作者は東京生まれで京都行ったことないです。

花開院家

「ただいまー」

うちらを出迎えてくれたのは秋房兄ちゃんやつた。

竜一兄なら絶対やつてくれへんお茶と菓菓子を出す」とまでもやつてくれた。

まったく竜一兄も秋房兄ちゃんを見習つたらどうなんや。竜一兄にゆつたら怒られそうやなあ。

「ゆひ、お煎餅、置に落とせなこの。氣をつけて」

朝日姉も竜一兄とは大違いや。「ちも人のこと言えへんけど。朝日姉はうちと同い年やけど昔からなんでもできて優しかつた。うちと二人きりになるといたずらっこみたいな表情になつて、よくふざけてた。朝日姉は修行も手伝つてくれてたから、外国に行つちやつて少しほみしかつたなあ。

「ゆひ、またお煎餅落としてるよ..どつしたの? まーっとしがやつて」

「考えい」としてただけや

うちがそういうと彙つていた表情を明るくさせた。朝日姉は優しいが怒るとめぢやくつや怖いんや。にこにこと不気味なぐらい笑顔で笑い掛けられたら即死もんや。

「朝日を怒らせてはいけない」

とこう沈黙の了解があるほど。陰陽師としても超一流なんや。竜一
兄に陰陽術の基本を教えたのも朝日らしい。

「帰つてきてたのか？」

花開院家（後書き）

区切りあまりよくなかったですね。

次回朝日のもうひとつ秘密があきらかに！？
ヒントは「朝日って身長、165cmもあるって高いよね？」と「

竜二つて年下に習つかな？」です。

答えは次回のお楽しみです！

朝日は本邦は・・・(前書き)

朝日のもう一つの秘密、予想付きましたか？
本編にはあまり深く関わらない秘密なので深く考えなくていいと思
います。

今回は朝日視点です。

朝日は本当に……

「帰ってきたのか？」

声を掛けってきたのは竜一だった。竜一は私を見ると、何か思い出したような顔をして、

「学校にしてしまって休むつて言ふところだ。」

学校……あ、高校のか！

「あいがとう。」

竜一が微かに微笑んだ。口は悪いけど顔がいいからその様子もそのままになってる。

「学校つて？」

夏実ちゃんが聞いてくる。あれ？ 言つてなかつたけ？

「高校生だよ？ 私

皆ポカーンとしている。驚くことかな？ 竜一は思い切り笑っている。

「じゃあ、なんで中学に？」

「勉強してゐるリクオのことが見たかつたから」

皆固まつてゐる。無理もないかな？ 頭がついていかないよね。竜一

はまだニヤニヤしてこる。竜一の「」とだから「」つなる「」と云ふことをいたんだが。

「朝日、高校にも遊びってね？」

リクオが黒い笑みを浮かべている。あれ？ 確か

「私、一週間他校見学でいますって言わなかつた？」

「そりいえば……」

結局忘れてただけらしい。私は竜一と同じ学校に通つていて、学校への連絡は竜一に任せている。もしかしてわざとあのタイミングで言ったの？ 竜一らしいけど。

そして京都の観光スポットを案内する「」とになつた。主に神社とかだ

朝日は本当に・・・（後書き）

朝日の秘密は実は高校生でした！

朝日はお茶田といふこととやつぱり総代将に過保護といふことを分かつてもらうための設定だつたりします。

番外編1 パラレルワールド1（前書き）

ちょっとしたネタ切れになりまして・・・。
なので原作と妖と陰陽師のクロスをと・・・。
思いつきですが見てください。

視点は神の眼というか・・・私です？

原作キャラは

ぬらりひょんの孫 side リクオ（清継、力ナ、巻、鳥居、島、
氷麗）

? ? ? side リクオ（清継、力ナ、巻、鳥居、島、氷麗）に似
た少年（少女）
表記になっています。

番外編1 パラレルワールド1

パラレルワールドとは「観察者がいる世界から、過去のある時点で分岐して併存するとされる世界。並行世界。」だという。そんなパラレルワールドのお話。

ぬらりひょんの孫 side

ある日の清十字怪奇探偵団。

「パラレルワールドの都市伝説をしつてているかい？」

珍しく妖怪の話じゃないことを清継が話し始めた。

長いので簡単にまとめる

1・紫色の光に向かつて歩いていくとパラレルワールドに行くことができる。

2・実際に体験者も多数いて皆口を揃えてこいつのだと。「黒い髪の化け物がいた」と・・・。

3・しかも場所が京都らしき場所で大きな屋敷だったらしい。

4・清継はその化け物が妖怪だと睨んでいたらしい。

「嘘臭くない？」

「噂でしょ？」

メンバーは皆否定している。があと数刻後に自分たちが同じ日にあうことを彼らはまだ知らない・・・。皆で帰ることになつたのだが校舎の裏から紫色の光が漏れていいるのが見えた。

清継が行つてしまつた為、皆で追いかける。リクオは光で目が見え

なくなり、目をつぶる。意識が遠のいていく。噂は本当だったのか。
・・・もしかして妖怪の・・・。そこでリクオは意識を失った。

? ? ? s . i d e

「なんで休日に家の手伝いなのかしら?」

少女はあまりそういう思つていよいよ見えるが、昔から彼女をしつ
ている者なら口を揃えて言うだろ?。「絶対不機嫌だな・・・」と。

「僕達まで巻き込まれてるし」

リクオもぼそつと言つ。リクオも休日まで妖怪に関わらなきゃいけ
ないのかとうんざりしているのだ。氷麗は楽しそうだが。
文句を言つていると辺りを紫色の光が包む。

「またか・・・」

少女のつぶやきも光に包まれた。

どしん!!

重いものが落ちたような音がする。駆けつけた先にはリクオと氷麗
とカナと清継と巻と鳥居と島にそつくりな七人の少年、少女がいた。

「いつたあ・・・」

うめき声を上げる。

「奴良君に及川君? ?」

清継ににた少年は後ろのリクオに似た少年と氷麗に似た少女と氷麗

トリクオを見比べ、私を見る。

「君は・・・誰だい？」

番外編 1 パラレルワールド 1（後書き）

すみません！

セリフと地の文の間に一行あけるのを忘れてました・・・。
以後気を付けます。

番外編1 パラレルワールド2（前書き）

表記は前回と同じで、神の眼視点です。
短くてすみません。

番外編1 パラレルワールド2

「君は・・・誰だい？」

少女はハアとため息をつき、肩をすくめてから

「花開院 朝日。花開院家の陰陽師よ」

清継に似た少年は目を輝かせるが、ゾクツとする程まがまがしい殺氣にビクッと震える。殺氣を出しているのは少女で顔は笑っているが、なんか怖い。

「ここはパラレルワールド。噂ぐりこは聞いているでしょ？リクオとその男の子の性格は同じよ」

リクオとリクオに似た少年を指さす。イマイチ状況が掴めないし、言っていることも分からぬ、リクオに似た少年達は屋敷の中へ連れ込まれ、リクオに似た少年と氷麗に似た少女のみ違う部屋に通された。

すると唐突に少女は尋ねた。

「君たちも妖怪でしょ？リクオみたいに」

「…-そつだけど…」

「安心して。私も妖怪と陰陽師の子だから」

少女は虚空を睨み、悲しそうに目を閉じた。そしてこれから妖怪のことなど情報交換した。最初は堅かつた空氣もビリバヤ。夜まで

多愛ない話は続いた。

番外編 1 パラレルワールド3（前書き）

視点は前回と同じ、表記はリクオ（清継、力ナ、巻、鳥居、島、氷麗）君（さん）です。ややこしくてすみません。

番外編1 パラレルワールド3

次の日

「仕事なんだけど君らも来る?」

朝日の問いかけに清継君は田を輝かせ、眞を巻き込んで行くことになつた。巻さん達はブーイングしていたが

「そんなに大変な仕事じやないから大丈夫よ」

という朝日の言葉で渋々行くことにした。

今回の仕事の内容は朝日の通う学校の妖怪退治で、朝日の通う学校の校長は妖怪方面に理解があるため、色々講義して欲しいらしく、（妖怪の認識が甘く危険なことになりかねないため、大事になる前に対処できるよう）にという理由で）登校日まで作つて、来て欲しいとのことだった。行くのは実際に通つている朝日と竜一だった。清継君達は生徒の中に紛れていればいいとのことだった。

朝日の通う学校

「花開院家の陰陽師の花開院 朝日です」

「・・・花開院 竜一だ」

体育館に集められた生徒達は急に陰陽師だのなんだのと言われ、混乱している。

「今回まじの学校に妖怪がいるので依頼で来ました」

ざわざわと体育館が騒がしくなる。大半は笑っているが、竜一と朝日のクラスメイトは神妙な顔をしている。彼らは妖怪に遭っているからだ。しかもかなり怖い思いをしている。

ガシャンッ！ 急にパイプイスが倒れ出す。後ろを振り返ると妖怪がいた。数は四つと二十。おそらく陰陽師に気づき威嚇しているのだろう。

「あやああああーーー！」

誰かが叫ぶ。皆もパニックになり、あちこちで悲鳴が上がる。

「あれが妖怪です。私達が退治しますので、騒がず静かに」

「式神破軍！ー！」

「餓狼 嘉え」

破軍で妖怪の動きを封じ、餓狼で倒した。その素早い動きに生徒は黙り込み、清継君と秀元は拍手している。

「いやー さすが花開院の陰陽師だねー」

「相変わらずやなあ、朝日けやん」

『当たり前

発言まで息ピッタリだ。一人はそのまま妖怪について説明することにし、説明を始めた。

(あつちもこつちもたいして変わらないみたいだ)

(みたいですね。朝日さんがこつちにも居てくれたらよかったです
ね)

(アハハ・・・)

相変わらずこそそと話す一人にカナと島は疑いの視線を向けつつ、
こちらも清継のストップバーになりそうな朝日が居てくれたら・・・
と思つたのだった。

番外編1 パラレルワールド3（後書き）

次回セリフだけ、妖と陰陽師の清継が出てきて、無鉄砲ぶりを原作
リクオ達に見られます（笑）
まあ性格は同じですが・・・。

番外編1 パラレルワールド4（前書き）

視点、表記変わりません。
正直やりづらいです・・・。
違うところがありましたら教えてください。

花開院家

いやーすこかつたよ朝田君！」

「ありがとう・・・」

学校での見事な手腕に感動したらし
い清継君がずつと褒めている。
朝日もだんだんうつとおしくなり、
適当な返事になつてゐる。リク

携帯が鳴る。

朝日新聞のすぐ隣にいたテザインの携帯を取り出す。

もしもし？・・・平氣だけど？『妖怪ツアーハ行こう！』

リクオ君達にも聞こえるような大声で清継が言う。そしてリクオ君達は思った。

（どの世界でも同じなんだなー）

と。朝日も呆れ顔で分かつたとだけ言い、切つてしまつた。
それから多愛ない話をしていたが突然、リクオ君達の体が紫色に光
る。

「タイムリミットみたいね。自分達の世界に帰る時間よ」

「向こうのコクオ様もがんばって下さい！」

氷麗が一コリと笑いかけるとリクオ君も頷き、それが合図のようにな
光が強くなる。

「さよなら」

その言葉の後、氣を失ってしまった。

番外編1 パラレルワールド4（後書き）

どうして引きずるんでしょう？

なぜかやるやると途中で打てなくなってしまって元祖せりふ
ませんでした・・・。

感想ください！

なんか心配になつてきて・・・。

リクエストでもなんでもオッケーです

番外編 1 パラレルワールド5（前書き）

視点はリクオ、表記はいつも通りです！

完結・・・。

番外編が一番長いってどうなのでしょうね？話数が。

番外編1 パラレルワールド5

ぬらりひょんの孫 side

「ハハハん・・・」

僕は意識が戻ったようで、辺りを見渡す。
元居た場所に戻っているようで、時計を見る限り時間も経っていない。

「あっちの僕も頑張ってね」

誰にも聞こえない程小さな声で僕はつぶやき、あの不思議体験も今思えば楽しかつたなー等と思いながら氷麗達を起こした。

さて、僕もがんばらないとね！

あれ？ そういえば黒い髪の化け物って誰のことだったんだろう？
朝日さんも黒髪だったよね・・・。朝日さんのこと？ まさか・・・。
妖怪でも見たのかなー？

同時刻、??? sideもとい、妖と陰陽師 side

「さて、あっちのリクオ達も帰ったし、のんびりしよう」とー。

ヘクショソンッ！ 思い切りくしゃみをする。朝日は首を傾げ

「風邪でもひいたのかな・・？」

トリクオが噂していたことなど露しらず（しかも当たつている）そんな風に解釈していた。

番外編 1 パラレルワールド5（後書き）

感想、指摘、お待ちしています！

最後のシーンの謎

朝日「最後のあれなんだつたの？」

瑠璃色「そのまんまの意味だよ？」

朝日「そういうんじやなくて・・・。」

瑠璃色「詳しくはまた別の機会に説明します！」

朝日「はぐらかした？まあいつか。次回も見てくださいね！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3966z/>

妖と陰陽師

2011年12月18日23時47分発行